

---

 <書 評>
 

---

## 痴 呆 Dementia

C.E. Wells 著／池田久男・岡山大学助教授 訳

浴風会病院副院長・内科 大 友 英 一

老年者を取扱うことの多いものにとって痴呆は老年者の特許のごとく考え易いが、いわゆる脳動脈硬化症を始め各種脳血管性障害、脳腫瘍以外の各種神経疾患にも痴呆が出現するという概念的なものを、代謝性疾患、感染性疾患を含めあらゆる脳疾患に屢々痴呆が出現するという現実的なものに認識を新たにさせてくれる良書である。

著者の Dr. Wells は Vanderbilt 大学の Psychiatry および Neurology の associate Professor であり、彼の外に神経学、精神医学、脳外科学および病理学などの12名の専門家が分担して、痴呆の症状、神経学的検査、脳波、レントゲン学的診断、さらに痴呆の病理、生化学的面などを詳細に述べている。

訳者の池田助教授は精神医学の教室で神経学を担当されている精神医学、神経学のいずれにも精通されている、いわば両刀使いの「痴呆」に

ついて最も適切な専門家である。本書は池田助教授を中心とする神経学研究グループの専門家が翻訳を手伝っておられる、この様なことから訳語は適切であり文章も極めてなめらかで、ひっかかる所なく読み通し得る名訳である

内容は1972年の最近の文献まで引用してあり痴呆についてあらゆる面から追求している。

どの様な場合痴呆を疑うか、痴呆が疑われた場合はどの様にして検索を進めてゆくかなどを懇切丁寧に述べてある。

心理テストを始め各種テストについてそれぞれの特徴を具体的に述べてあり、また痴呆例の示すいろいろな神経学的所見、その検査法の記述も詳しく、また失語、失行、失認など high function についても一項目がもうけられている。

痴呆を示すあらゆる疾患をあげこれについて解説されてあり極めて有

益である。

脳動脈硬化性痴呆の診断が安易に下され易いことについて批判的であり、この診断名についてかなり慎重である。この点、剖検例を取扱っている筆者は賛成である。

一般内科医、神経科医、精神科医が遭遇する最も多いもの、今後益々多くなってゆくものは老年痴呆、いわゆる脳動脈硬化性痴呆であるが、この両者の鑑別などについてももう少し述べられてもよいのではないか。また血管性病変による痴呆の場合、vasodilator の使用で改善を示す例の存在することなどの記述のない点が少々物足りない位で、他は全く申分なく詳述されている。

以上、これ以上望む所のないほど「痴呆のすべて」が述べられてあり、神経科医、精神科医、脳外科医はもちろん一般内科医、さらに心理学を専攻する者にとって必読の良書であり、是非一読をおすすめしたいものである。

改めて、訳者のご努力に敬意を表したい。

(B 5 頁208 図28 写真16 ¥5,200 千170)

---

 医学書院刊
 

---